

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	救助技術大会出場に向けた訓練(ロープブリッジ救出)中の負傷事故
3. 体験した事例の中心的要素	訓練開始から1ヶ月以上経過しており、身体的にも疲れが蓄積していたことと、部分訓練による同じ動作を繰り返し実施することによる注意力の低下。
4. 体験した事例の原因・理由	部分訓練を反復することにより、慣れと疲れが生じていた。結果を残すことに重点を置き過ぎ、安全・確実性を疎かにし、迅速性を優先させていた。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成22年6月18日 午前10時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：常設訓練塔上
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	激突
7. 事例体験時の活動	演習訓練、[救助(大会に向けた)]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他：救助技術大会参加訓練(ロープブリッジ救出)
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

○当事者A	年齢[27]歳、勤続年数[10]年、現場経験年数[9] 年、階級[消防士] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 []、任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

[illegible]

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	訓練参加者	ロープブリッジ救出訓練を開始する。	
経過2	訓練参加者	休憩開始	
経過3	訓練参加者	休憩終了	
経過4	訓練参加者	部分訓練を開始する。	
経過5	当事者(隊員A)	搭上に登る際、足先が滑り脛部を激突した。	
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

[illegible]

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合:ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が劣っていた。集中力、注意力がなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

反復訓練による慣れや疲れが蓄積したことにより怪我に繋がったことから、隊員の様子を見ながら休憩時間を取らせたり、隊員同士での注意を促す。

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

安全管理者が隊員の動きに注意して、訓練の継続・中止を早めに判断する。

○指揮・情報伝達の対策について

救助訓練（ロープブリッジ救出）中の事故写真



搭上へ登る際、足先を滑らせ左足脛部を搭上単管パイプにぶつけ負傷したもの

